

2018年4月27日

## HOBIA NEWS No.344

### 目次

- HOBIA 平成30年度通常総会・例会開催のご案内
- 甜菜新品種の試験栽培に関する要望書について
- 関西バイオビジネスマッチング2018への参加報告

### ● HOBIA 平成30年度通常総会・例会開催のご案内

日時 平成30年6月27日(水) 理事会 11:00 ~ 12:00  
総会 13:00 ~ 14:00  
例会 14:30 ~ 17:00  
交流会 17:30 ~ 19:00

場所 北海道大学 百年記念会館 大会議室 (札幌市中央区北9条西5丁目)

### HOBIA 第126回例会

HOBIA 平成30年度通常総会に引き続き 北海道大学 百年記念会館 大会議室にて開催

【講演1】14:30~15:30

『オキシトシンの生理作用と測定効果の意義(仮題)』

フロンティアサイエンス

幸福ホルモンとも呼ばれるペプチドホルモンのオキシトシンについての講演

休憩 15:30~15:45

【講演2】15:45~17:00

『新JAS法の説明(仮題)』

消費安全技術センター(FAMIC)

食品表示法の改定で、JAS法も改正せざるを得ない状況。農産物の種々の規格化についての講演

参加費 HOBIA 会員 無料、 非会員 1,000円

17:30~19:00 交流会 (参加費 4千円)

会場: 北大マルシェ Cafe & Labo (百年記念会館内 大会議室向い)

## ● 甜菜新品種の試験栽培に関する要望書について

知事への要望書を提出しました。新品種の甜菜の試験栽培を農業試験所に実施してほしいとの要望書です。国産の砂糖の製造は、始めから赤字の農業で砂糖製品への上乗せ調整金を財源とした消費者負担を主にした補助金制度によって成立しています。農業の現場では、人手不足が深刻化しており甜菜の除草に手間がかかり補助金があっても維持が難しくなっています。しかし、オホーツク地域では甜菜を輪作から除くと代替え作物が見当たりません。一方で、アメリカ、カナダ、オーストラリアでは、除草剤耐性の組換え甜菜を導入することによって人手不足を軽減し大きなコストダウンに成功しています。これを北海道でも実際にそのようになるのかを試験してほしいという要望です。

下記に要望書の原文を示しました。要望書の中の引用文献部分は本ニュースでは掲載の場所が足りませんのでホームページ上で掲載予定です。道庁には2月8日付けで送付いたしました、まだ返答は頂いておりません。

.....  
【以下、北海道知事宛要望書】

平成30年2月9日

北海道知事  
高橋 はるみ 殿

特定非営利活動法人  
北海道バイオ産業振興協会 (HOBIA)<sup>1)</sup>  
理事長 北野 邦 尋

### 遺伝子組換えテンサイの実証栽培試験に関する要望書

遺伝子組換え作物の商業栽培が始まってから2018年で22年を迎える。2017年までの21年の間に遺伝子組換え作物の導入面積が約110倍に増加し、栽培国は28カ国、総栽培面積は1億8,510万ヘクタールとなっている。これだけ急速に伸びた理由として利点が大いことが挙げられる。利点としては、生産性の向上による労働力や経費の削減と収量増による農業生産者の収益増、そして農業からの温室効果ガスの削減による環境保全等を挙げることが出来る。<sup>2)</sup>

翻って日本を見ると遺伝子組換え植物は観賞用の花以外、商業栽培は行われていない。この原因としては、報道機関などが遺伝子組換え作物に対する不安だけを報じ、利点を報じていないことが挙げられるが、世界を見ると、こうした不安に米国科学アカデミーの報告<sup>3)</sup>をはじめさまざまな学術団体などがきちんと科学的に説明し、国民の不安の解消を図っている。日本では、こうした不安に対して学術団体や科学者からの科学的な正しい情報提供がなく、報道も否定的なものが多かった。最近ようやく少数ではあるが、「誤解だらけの遺伝子組換え作物」<sup>4)</sup>に見られるような正しい根拠に基づいての報道も出てきている。

また、平成26年度に北海道が行った道民意識調査<sup>5)</sup>では、遺伝子組換え作物に不安を持つ者が80.4%と高いが、試験研究の実施を是としている者は、81.0%と非常に高いものであった。これは、道民は、遺伝子組換え作物への不安を持っているが、その一方で試験研究は重要で行うべきであるという意識を持っていると考えられる。

一方、海外の情報から遺伝子組換え作物の栽培で、労働力や経費の削減により生産性が向上し、収益が増えること<sup>6)</sup>に関心を持ち、遺伝子組換え作物の栽培も一つの将来の選択肢と考える農業生産者が出てきている。具体的には、北海道農業者の会<sup>7)</sup>、テンサイ栽培研究会<sup>8)</sup>などである。テンサイは雑草防除に大変な労力と経費がかかること<sup>9)</sup>から栽培面積が減少傾向にあり、テンサ

イ生産者は輪作体系で重要な作物のテンサイ栽培の持続可能性に危機感を持っている。そうした中でテンサイ栽培研究会は遺伝子組換え除草剤耐性テンサイの利点とリスクを理解し、北海道において役立つものなのかどうかを調べるための実証栽培試験を公設機関で行って欲しいという要望を行っている。

このような状況にあって、日本農学アカデミーが本年 3 月に学術団体として日本で初めて、遺伝子組換え作物の実証試験栽培を公設機関で行うようにとの提言<sup>10)</sup>を行っている。日本農学アカデミーはテンサイ栽培研究会の声を取り入れ、北海道において遺伝子組換え除草剤耐性テンサイの実証栽培試験を公設機関で実施することを提言している。

上記の提言を北海道バイオ産業振興協会（HOBIA）は重く受け止め、そのアグリバイオ部会員が主要メンバーである北海道農業者の会、テンサイ栽培研究会の活動を理解し、さらには全体での検討を重ね、遺伝子組換え除草剤耐性テンサイの実証栽培試験を北海道の公設機関での実施することは以下のことから可能であり、かつ、重要であると考えられる。

1. テンサイは、二年目でなければ開花しないので交雑の可能性が低く、極まれに一年目に開花することもあるが除去は可能である。
2. 種子は生産現場で作らず、毎年購入していることから実証栽培試験を行っても種子を通して交雑することはない。
3. テンサイは、北海道の畑作地帯でコムギに次ぐ面積で栽培されているが、除草作業が大きな負担であり、農業者の高齢化と労働力不足により深刻な問題となっている。除草作業を省力することにより、除草剤で 6,600 円/10a 削減、除草のための労働時間 9 時間/10a（約 16,000 円/10a）削減でき、雑草防除のコストは 22,000 円/10a と大きい。これに加えて除草に使う農機や燃料など、費用の削減は非常に大きいと考えられる。テンサイの平均的栽培面積を考えると農業者当たりの収入の増加は百万円を超えるものになると考えられる。また環境負荷の軽減も考えられ、その利点は大きいものである。
4. 除草のための労働時間は、大幅に削減されることは、米国のデータ<sup>10)</sup>でも出ている。この労働時間の削減は、規模拡大を可能にし、北海道農業の発展に欠かせないと考えられる。

以上のことから、HOBIA は以下のことを要望致します。

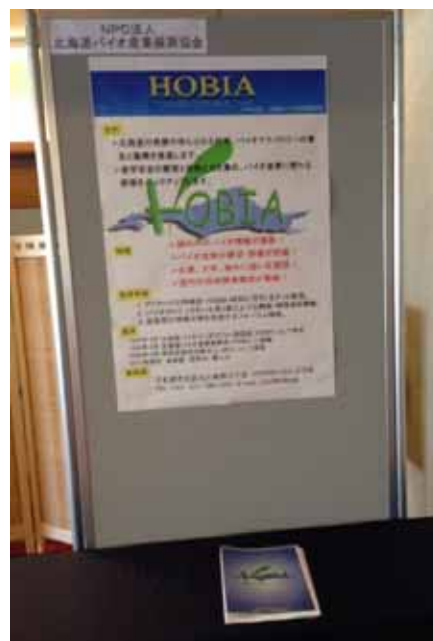
1. 北海道総合研究機構でテンサイ生産者の要望である遺伝子組換え除草剤耐性テンサイの実証栽培試験を早急に行うこと。
2. その結果を道民に伝え、結果に基づいた遺伝子組換え作物の栽培の利点とリスクに関する議論を行うこと。
3. これらの結果に基づき、現在の「北海道遺伝子組換え作物の栽培等による交雑等の防止に関する条例」の見直しを行うこと。

以上

## ● 関西バイオビジネスマッチング 2018 への参加報告

過日 2 月 16 日に大阪で開催された同マッチング会は、延べ参加者が 280 名（運営関係者を含む）で、参加した売り手企業は 48 社（売り手として参加した大学も 2 機関）、買い手企業は 27 社、個別ブースで行われた商談は 152 件で、昨年からやや参加人数を減らしながらも成功裏に終了しました。展示及びプレゼンテーションへの道内企業の参加数は、実質的な道内企業と言

えるコスモバイオを含めても2社に止まり、少々寂しい状況になりました。ただ、商談会では各社とも精力的に面接を進めていた模様でした。依然と異なり、プレゼンテーション会場はポスター展示場の中に設営され、椅子席数が減らされたことも有りほぼ満席で、立ち見も出て全体としては盛会であった様でした。プレゼンはスムーズな運営でほぼ時間通りに進行していましたが、初参加のためか若干慣れない企業が有り、時間配分を上手く使えていない様でした。展示会場には若干の余裕がありましたが、あまり多くの企業を受け入れること難しいと思われるため、現在の規模が適正ではないかと思われます。今回は、ホワイエ側ながら HOBIA にも展示スペースがあたり、ポスターと資料の展示を行いました。ただ、やや準備期間が無かったこともあり、もう少し工夫の必要が有るように感じました。



今回も独立行政法人 中小企業基盤整備機構がマッチング会の運営に関わることになり、機構の担当者と話したところ来年度も事業が継続できると予想されます。展示を改善した上で、HOBIA の事業に関しても継続した方が良いのではないかと考えています。

HOBIA 関西バイオビジネスマッチングコーディネーター 富永一哉

**HOBIAのホームページ** <http://www.hobia.jp>

NPO法人 北海道バイオ産業振興協会  
札幌市北区北21条西12丁目コラボ北海道内  
Tel&Fax (011) 706-1331  
e-mail : [jimu@hobia.jp](mailto:jimu@hobia.jp)